

# 第23回日本トライアスロン選手権 (2017/東京・台場)

派遣審判業務報告書 2017年10月14日～15日

佐賀県トライアスロン協会 脇田達司

2018年1月11日

## 【日程】

10月14日(土)	10:00	お台場海浜公園へ
	11:00	台場フロンティアビル 第1回技術審判会議出席
	15:00	パラトライアスロン Swim Exit Assistant 導線確認
	17:00	台場フロンティアビル 第2回技術審判会議
	19:00~21:00	意見交換会(懇親会)出席
10月15日(日)	21:30	APA HOTEL 潮見駅前(泊)
	5:00	会場入り
	6:00	審判員集合 審判員最終打ち合わせ
	6:30	コース設営準備 交通規制開始
	7:00	パラトライアスロンデモンストレーションスタート
	8:25	女子スタート
	11:00	男子スタート
	13:30	競技終了
	14:00	審判員会議
	14:30	業務終了

【担当セクション】 ペナルティボックスサブチーフ・トランジションエリアチェックイン・スイム エイド・パラ SEA(スイムフィニッシュ補助)

## 【業務報告】

- はじめに  
2023年に行われる佐賀国体に向けて競技・運営の強化の一環として前年に引き続き日本トライアスロン選手権の派遣審判業務という貴重な機会を頂き、県協会をはじめ関係各位に感謝申し上げます。  
今回は全国の加盟団体から85人の審判員が集まりました。
- 業務の流れ  
(第1回技術審判会議) 8日 11:00~  
業務マニュアルを各自で事前にダウンロードし、目を通すことから始まりました。  
今回はトランジションエリア内での業務がメインということで千葉県協会の園川氏が中心となって担当内訳のプリントが配られました。  
会議後、現地の確認を行われました。



第1回全体会議のようす



トランジションエリア担当審判の現地打ち合わせ

(左から3人目が園川氏)

今回は昨年1月、宮崎で強化合宿の事故で亡くなった小林大哲選手の献花台が設置され男子のレースナンバー8は欠番扱いとなりました。



トランジションエリア 前日設営中のようす



SWIM Finish から T1 への導線

午後からはパラトライアスロン デモンストレーションの現地説明が選手、スタッフ、審判が一同に会して現地で行われました。



2020年の東京オリンピック・パラリンピックではこの地で競技が行われるということもあり、選手や関係者間でどのようにすれば安全にかつ公正に競技が行うことができるか意見交換が活発に行われました。

(意見交換会【懇親会】) 14日 19:00~21:00 OVEN 台場にて翌日の審判業務を無事に終わられるように行われました。私は、今回一緒に派遣された事務局の小松さんと席を囲みました。前年の経験で名刺を40枚用意しましたが今年もあつという間になくなってしまいました。今回はパラトライアスロンのデモがある関係で宿泊も用意されていました。

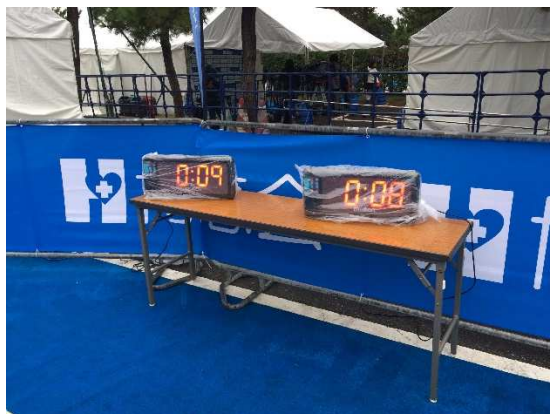
大会当日(10月15日)  
前年に続き雨の中での競技でした。  
今回メインとなるペナルティボックスの設置から業務を行いました。



ペナルティボックス



ペナルティボックス入口 ボードは20m手前に設置



タイマーは2台 技術代表と協議し減算式で行うこととなりました。

(タイマーが0になるとブザーが鳴る。)

トランジションエリアにはクレーンカメラが設置されていてNHKとの打ち合わせもありました。ホスト局との打ち合わせはペナルティボックスのレースナンバーボードをどこに置いたら良いかなどでした。見映えもとても大事です。

トランジションエリアでは並行してレースナンバーボード(紙を貼ったマグネット)を付けたりする作業もありました。特に女子のランの競技中に選手の荷物やバイクの撤去、男子のナンバーを付け替えの作業は慌ただしかったです。(マーシャルだけではもちろん足りないため外部スタッフも協力していただきました。)

パラトライアスロンのデモンストレーションではスイムイグジットアシスタント(SEA)の担当でしたが、特に大きな作業はありませんでした。



基本的にマーシャルが介在する場面は限られているので(良かれと思ってやったことが選手への助力になることも懸念される。)、事前の知識をしっかりと叩き込む必要があります。

スイムフィニッシュから T1 の間のエイドではペットボトルの水を開栓するタイミングはとても難しいがおおよそ最終ブイを通過した時点で用意してもよいかと思いました。

今回ペナルティ対象事案はありませんでした。

その分、トランジションエリアのお手伝いやフィニッシュへの走路確保など様々な業務を行うことができました。柔軟な対応は必要不可欠です。

### 3. 派遣審判業務を終えての感想

今回は前年の経験がかなり生かせたと思います。

雰囲気にもまれずに自分が担当する業務をそつなくこなし、

手が空いたら連携を取りながら別の業務をサポートすると言ったことができました。

もちろん選手もエリートなので審判もエリートでなければならないと思いました。

選手が最高のパフォーマンスをするためにどんなことをすれば審判としてやってよかったと思われるか、念頭に置きながら業務行う大切さを学びました。

今回の派遣に当たっては佐賀県協会の川添会長、理事のみなさん、事務局の小松さんをはじめ JTU 九州ブロックの野口会長、加納理事、東京都連合の則井副会長、アドバイスを頂きました九州ブロックの審判員の皆様、そして今回の携わったすべての審判員の皆様に心から感謝申し上げます。

2023 年の佐賀国体に向け競技はもちろん運営・審判もさらに強化していくとともに私自身も審判技術の向上に努めていきたいと思っています。

最後に私事で恐縮ですが、この日本選手権の審判派遣前に仕事の拠点を東京へ移しました。

(競技者・審判員登録は引き続き佐賀県協会をお願いすることとしています。)

選手復帰は遠くなってしまいましたが、審判としては横浜の WTS やこの日本選手権など各種大会で技術の向上などを目指していきたいと思っています。首都圏の大会へお越しの際はぜひお声かけ下さい。

ありがとうございました。



今回佐賀県協会から派遣された事務局の小松さんと



ペナルティボックスを担当した岡山県協会の繁田会長と



競技終了後の審判会議